

ガンマ線レベル計
GLB-1500(防爆型)
操作部7000タイプ
配線要領説明書

アースニクス株式会社



本 社 〒101-0021 東京都千代田区外神田1丁目9番9号
TEL (03) 3253-2059 FAX (03) 3251-4858

東京事業所 〒166-0011 東京都杉並区梅里2丁目1番15号
TEL (03) 6279-1070 FAX (03) 3313-5477

【配線仕様】

線源部および検出部を測定対象のタンク等に取り付けます (表示・テンキー無し)

AC100V 電源入力と通信ケーブルを接続します。

操作部には LCD 表示部やテンキーがあり操作しやすい場所に設置します。

AC100V 電源入力と通信ケーブル、4/20mA 信号とリレー接点信号を配線します。

検出部と操作部は 4 芯の通信ケーブルで接続します。GLB-1500 の結線図をご参照下さい。

(1) 検出部～操作部間ケーブル配線

1. 検出部と操作部間の通信用配線です。
2. 他の機器からのノイズ侵入防止に配慮してください。
特にパルス性のノイズ発生源 (インバーター、リアクタンス負荷を持つリレー接点など) の配線とは 1m 以上離して配線して下さい。これらのケーブルと同一のケーブルトレイに収納することは避けて下さい。
3. 耐ノイズ性の観点から、編組シールドケーブルの使用を推奨します。
推奨仕様 (導体) 0.5mm sq 以上 ツイストペア 2 対 (計 4 芯)
(編組) 錫メッキ編組シールド (密度 80%以上)
(シース) 仕上げ外形 10~12mm φ
例) 日本電線工業 (株) 製 KNPEV-SB 0.5sq×2P
本仕様のケーブルを使用した場合、最大 1000m の接続が可能です。
4. 通信ケーブルの配線は、通信・信号端子箱の側面フタを開いて行います。端子台との接続は棒端子 (φ 2mm) を使用すると便利です。(単線または撚り線でも使用可能です。)
5. 操作部より 4/20mA アナログ出力とリレー接点が引出可能です。

(2) AC 電源用ケーブルの配線

1. 電源は、検出部、操作部ともに AC100 (AC90V~110V) が必要です。所要電力はそれぞれ定常時 30VA です。電源投入時の突入電流を考慮して 5A 以上の電源を用意して下さい。
2. GLB-1500 には、内部に電源スイッチが設けてありません。安全と保守のため AC 電源は必ず独立した専用ブレーカーから配線して下さい。
3. AC 電源用ケーブルも通信ケーブル同様にノイズ侵入防止に配慮してください。
4. 電源ケーブルの配線は、電源端子箱の側面フタを開けて行います。

(3) 4/20mA 出力・接点出力など

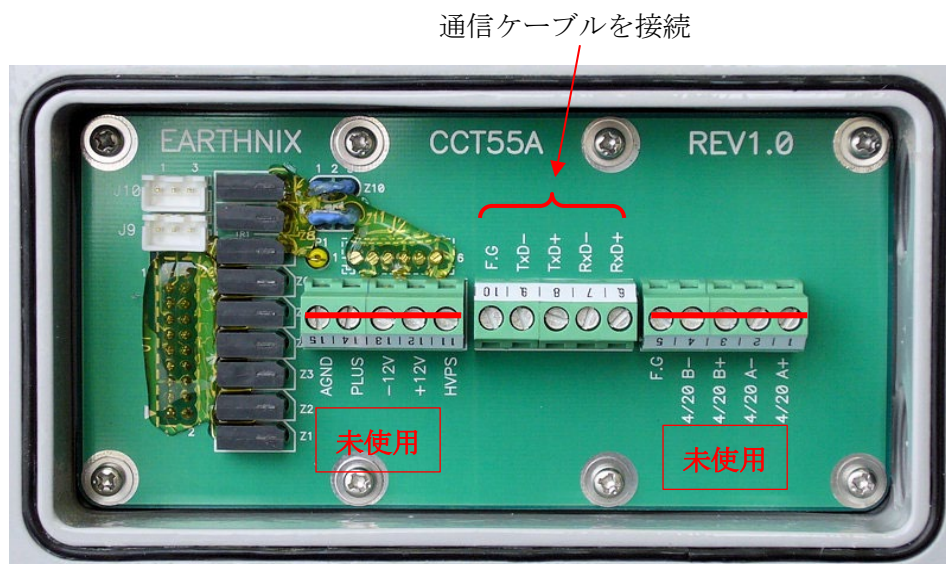
必要に応じてアナログ (レベル) 出力として 4/20mA 出力をご使用ください。また、デジタル (トリップ) 出力も NPN トランジスタ出力及びリレー出力をご使用になれます。(接点信号の ON/OFF の裏・表関係はキーボードから設定する事ができません。)

トランジスタ出力	リレー接点出力
光絶縁 NPN オープンコレクター	最大定格 DC30V 1A (抵抗負荷 $\cos \phi = 1$)
最大負荷 DC30V	最小適用負荷 DC5V 10mA (P 水準、参考値)
最大負荷電流 50mA	
定格負荷電圧 DC12V~24V	
漏れ電流 100 μ A 以下	
残留電圧 2.0V 以下	
出力 (トランジスタ及びリレー接点) の論理	
電源 OFF 時は、オープン (リレーは A 接点です)	
作動時の OFF/ON はキーボードから設定可能	

アナログ 4 / 20 mA 信号出力		
番号	信号名	備考
1	A出力 +側	負荷抵抗 max 500 Ω
2	A出力 -側	
3	B出力 +側	負荷抵抗 max 500 Ω
4	B出力 -側	
5	F. G (フレームグラント)	(通常接続はしない)

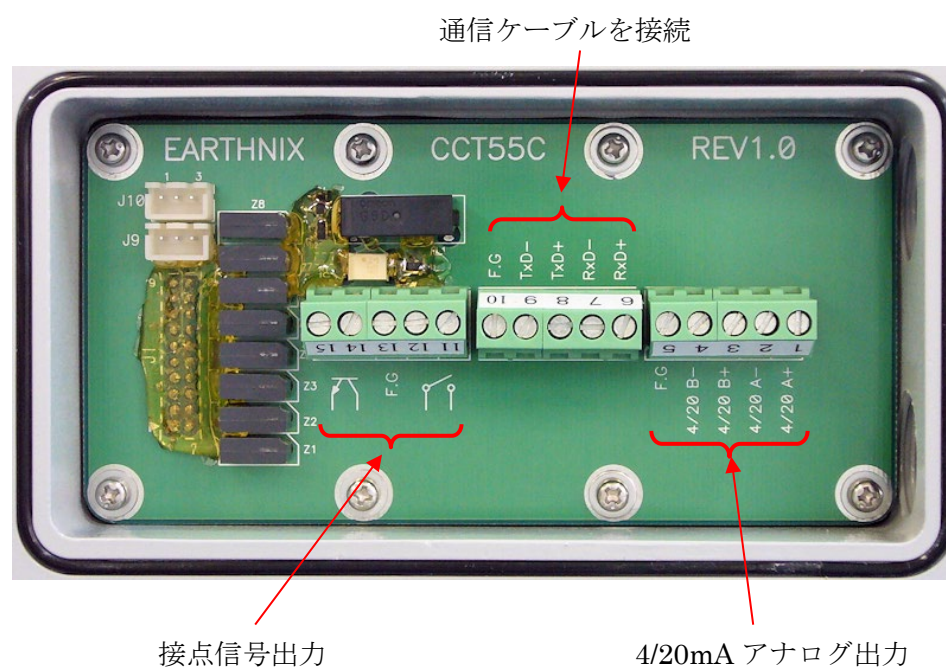
【通信ケーブルと信号出力の配線】

【検出部側 通信ケーブル端子台】

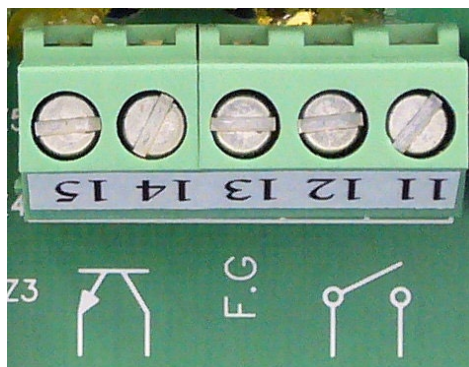


(検出部からは接点信号出力や 4/20mA アナログ出力は出ません)

【操作部側 通信ケーブル端子台】



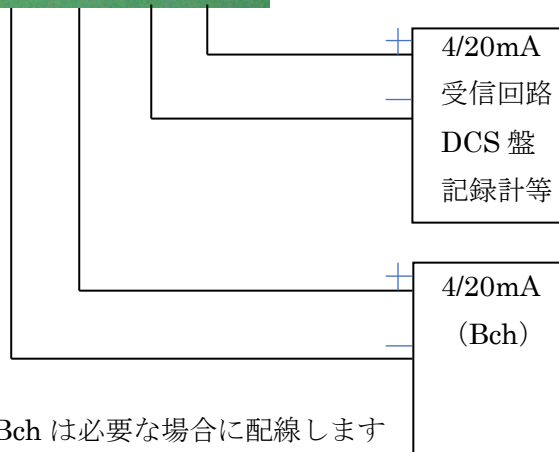
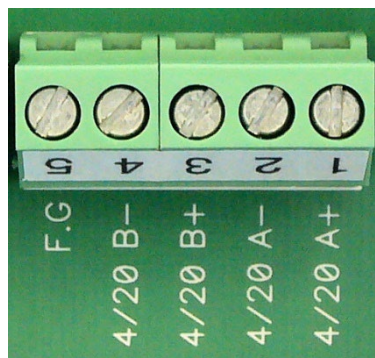
接点出力端子台



NPN トランジスター出力 リレー接点出力



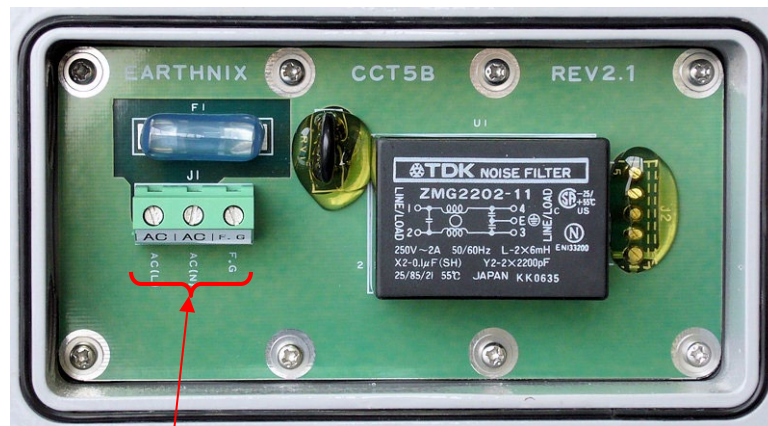
4/20mA アナログ出力端子台



Bch は必要な場合に配線します

【電源ケーブルの配線】

検出部側および操作部側 電源ケーブル端子台 (共通)



電源 AC100V を接続します。

